



行き詰った時には、視点を変えれば、解決の糸口がいくつも用意されている。ただそれに気づくことができるかが大事なんだと。そんなことを頭の片隅に置いて過ごした1年間。イベントでの販売がないなら、事業所に来てもらえるように宣伝する。大人数での活動ができないなら、少人数で対応すれば良い。今まで選んでこなかった方法に焦点をあてる。元に戻ることはばかりがいいことではなく、今の状況にどう適応していくかが大切なんだと。この1年間は、誰もが辛抱する事を強いられてきた。でもその中から、何の変哲もない当たり前だった事が、当たり前ではなかったと気づくことができた。これからの活動は、2倍3倍と有意義に、そして貴重な時間となって欲しい。 理事長 安田 孝高

令和2年度事業報告

- 1、障害者の地域生活の自立を促進させるための福祉サービス
 - <メンバー登録人数>
多摩ワークショップ25名、いっぽ舎21名(令和3年5月現在)
 - <事業所見学>
延べ人数15名

- 2、障害者による手工芸品その他アクセサリーの創作事業
 - <売上>
多摩ワークショップ 1,025,071円(前年比▲149,370円)
いっぽ舎 421,470円(前年比▲183,357円)

※布マスク制作販売 多摩ワークショップ1200枚(概算)
いっぽ舎 625枚(概算)

- 3、障害者による技術指導事業
 - <パッチワーク教室>
6回開催 延べ人数26人参加(前年比-20名)
 - <ボッチャ交流会>
法人主催のボッチャ交流会 合計4回 延べ人数29名

- 4、交流会等でのセミナー等講演事業
宿河原小学校、南生田小学校の福祉学習に講師として参加。

- 5、学生の体験学習の受け入れ事業
体験学習延べ人数0名
個人の学生ボランティアとしては、1名活動していただきましたが、学校単位の受け入れはありませんでした。

ご寄付御礼 カリタス学園様から50,000円
多摩ワークショップ元メンバーご家族様から
100,000円のご寄付を頂きました。

久しぶりのボッチャ

久しぶりのボッチャ、有志数人のボッチャ、新型コロナウイルス緊急事態で会場の閉鎖されたボッチャ、長い間ケースに閉じ込められ角張ったボール、投球することを忘れた腕、投げてもボールが思う所に届かずガツカリ肩を落とす。2か月間の自粛規制で不要不急の外出を控えて家に閉じこもり体力、筋力低下、持続力も落ち、こんなはずではと思いながらの練習会、いざ対戦相手と闘志むき出しのボッチャ、いつもの会場でいつもの様に、皆さんと一緒にボッチャを楽しみたい。

星野 繁

ボッチャクラブは、もともといっぽ舎の活動時間内で行っていましたが、コロナ感染対策を講じての移動や会場準備に職員の対応が追い付かず、時間的に余裕のある土日に、メンバーに限らず、家族やボランティアも含めマンパワーを利用した交流会開催にこぎつけました。多くのボッチャ大会が中止になる中、目標が定まらない今だからこそ、ただただボッチャが普通にできる幸せを大事にしていきたいです。

ボッチャ交流会



毎年、対面で行っていた福祉授業もコロナの影響で、開催が難しくなりましたが、社協からの提案で、オンライン福祉授業にチャレンジしました。2箇所の小学校からオファーを頂き、手探りの中、「どうやったら子供たちに伝えられるか」を今まで以上に自分たちに向き合い、考えました。子供たちから届いた感想文を読ませてもらって、「思いが伝わった」と目の前の壁を乗り越えて、一つ前に進むことができた実感しました。

オンライン授業の感想

新型コロナウイルスが流行し小学校に訪問して福祉授業が出来なくなり、オンラインでの福祉授業をする事になりました。事前に自己紹介の動画を撮り、それを見てもらって本番を迎える事になりました。直接のやり取りとは違って画面上でのやり取りは相手側の状況がわからないので、少しやりづらい部分もありました。

初回は変な緊張感で授業が終わった後、ドツと疲れがきてしまいました。話していても「伝わっているのか」不安になりましたが、回数を重ねるごとにだんだん慣れてきて、うなずきをしてみたり、話し中と書いたうちわを使ってみたりいろいろな試行錯誤をしながら楽しくやることができ、あっという間に時間がたって、まだまだ話しがしたいと思いました。何回やってもいつも伝わってるかどうか不安でいつぱいで仕方がありません。ですが手紙を貰ったりして「貴重なお話ありがとうございました」なんて書いてあったりするとやって良かったなと嬉しくなります。社協から取材が来るなんて思いもしませんでした。今後オンラインと訪問と状況によって使い分けてできたらなと思っています。

講師 桜井実奈



今までと違うところで一番は、反応(レスポンス、温度感の高低)がマイチよく分からなかったこと。病気、後遺症、障害者、車椅子利用の生活をもっと知ってもらいたいし、世の中にはいろんな人、いろんな障害者がいることを見て知ってもらいたい。しかし彼らの目の輝きがよくわからないのが辛かった。

コロナ禍、今の時代での福祉教育授業は、リモート、オンライン利用するのが普通になっていく。これはとても良い事だと思う。

しかし、これは利用者の慣れが大きな要素を占めるのかもしれない。自分自身のこういったネットワーク関連のスキルアップが課題だ。話し方、内容等、滑舌を良くし、ハッキリとわかりやすく話すこと。そして例えば、うなずく等のリモートテクニック、様々をもっと習得して離れていても何か感じてもらえるようにする。例えば、小道具の準備、電動車椅子その他、装具、杖、日常生活の工夫物。そして「生きている途中でいろんなアクシデントがあったとしても奇跡の人生を楽しむこと諦めないこと」を伝えたい。

講師 桑原隆史

会員募集

「NPO法人いっぽいっぽ」の趣旨に賛同し、支援くださる賛助会員を随時募集しています。

賛助会員 入会金1,000円 年会費一口1,000円
(口数に上限はありません。)

<振込先> ゆうちょ銀行 口座番号00240-6-65515
特定非営利活動法人いっぽいっぽ

※振込手数料は各自ご負担をお願い致します。

※法人事務局でも直接受け付けております。

NPO法人いっぽいっぽ

●法人本部

〒214-0014 川崎市多摩区登戸374

メゾン・ド・フォーレ101 多摩ワークショップ内

TEL:044-911-0488 FAX:044-911-0458

URL: <https://npo-ippoippo-houjin.jimdofree.com/>

●地域活動支援センター多摩ワークショップ

メール:npo-ippoippo-twshop@nifty.com

URL:<https://npo-ippoippo-twshop.jimdofree.com>

●地域活動支援センターいっぽ舎

〒214-0014 川崎市多摩区登戸369

第1ふじたけマンション103

TEL & FAX:044-299-8483

メール:npo-ippoippo-ipposya@adagio.ocn.ne.jp

URL:<http://ipposya.server-shared.com/>